

1 嬉しい応援

本校サッカー部の全国大会出場が多くのメディアで報道されたことで、嬉しい応援をいただきました。

本校に1年間勤務された方から支援金をいただきました。「サッカー部の全国大会出場の記事を新聞で見て、とても嬉しくなったこと。」「自分が勤務していた十数年前のことが思い出されて何か応援できることはないか考えたこと。」などその当時のお話をしながら応援してくださいました。

また、本校の外部講師としてお世話になっている前田木工所の前田明 様からも支援金をいただきました。「これくらいしかできませんが、生徒を応援していますと。」

また、施設の方がサッカー部の生徒を応援したいとサプライズでタオルを贈呈してくれました。

生徒を応援（支援）したいという地域の方々の存在は、励みになり、努力を重ねる原動力になります。多くの方の心温まる力強い応援を力に変えて、全国大会での全力プレーにつなげてくれると思います。

2 主体的に学ぶ姿

1月23日（金）午後から専門教科の学習でした。いつものように各コースの様子を見て回っていると、ハウスクリーニングコースが洗車の校内検定を実施していました。規定の時間内に洗車（生徒一人で1台）するものです。振り返りのために生徒個人用のタブレットPCで動画撮影をしながら。

検定の評価項目には、「作業前準備」「ボディーチェック」「スポンジ・ブラシ・高圧洗浄機の使い方」「予備洗浄」「泡洗車（足回り、ボディー、洗い方）」「洗い流し」「確認」などの各評価項目に認定審査基準が複数あります。

次の順番を待っている生徒が先生に質問したり助言を求めたりしていました。その表情はとても真剣です。きっと達成したい目標があるのでしょう。目標に届かなかった生徒は再チャレンジできるようです。

木工コースでは「家具製作技能士」（2月中旬試験）の取得に向けて外部講師から指導を受けながら真剣に課題に取り組んでいる生徒がいました。

学ぶ意義を十分に見いだせず主体的に学びに向かうことができていない子供の存在が中教審の諮問で顕在化している課題の一点目に示されています。なぜ生徒が真剣な表情で何度もチャレンジしながら学んでいるのか、そのヒントが見えたような気がします。